



## 博報堂教育コミュニケーション推進室 「大学に対する生活者意識調査」結果報告

- ◆ 生活者が大学を評価するポイントは、  
1位:【進路／就職の面倒見】(41.9%)、2位:【卒業生の活躍】(38.3%)。  
～“教育・研究力”と同等以上に、“人材輩出力”も大学の必須条件に
- ◆ 一方、生活者の3人に1人(33.0%)が「最近の大学は就活への意識が強く、  
本来の勉強が不足している」という懸念を抱く

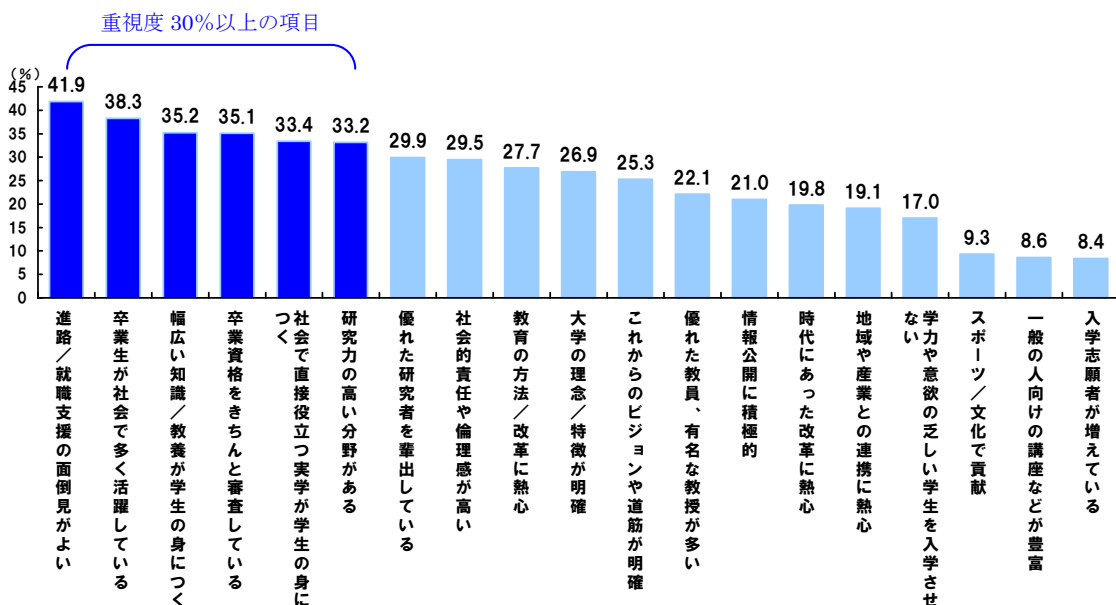
博報堂の専門組織で、大学や教育産業のマネジメントやブランディングを手掛ける「博報堂教育コミュニケーション推進室」はこのたび、“大学”に対する生活者の意識調査を実施し、最近の大学に対する生活者の評価や、今後の大学に対する社会的ニーズを探りました。

(2010年9月実査 | 有効回答:3977名 | 対象者:首都圏・関西圏の男女18歳以上69歳以下の生活者)

### ①生活者が大学を評価する視点

- ・ 「進路／就職支援の面倒見がよい」(41.9%)、「卒業生が社会で多く活躍」(38.3%)、「卒業資格をきちんと審査している」(35.1%)などの“人材輩出力”に関する項目が、最近の大学を評価する際の非常に重要な評価ポイントとなっています。
- ・ また、大学の本分ともいえる“教育研究力”に関する項目も、「幅広い知識・教養が学生の身につく」(35.2%)、「社会で直接役立つ実学が学生の身につく」(33.4%)、「研究力が高い分野がある」(33.2%)など、やはり人材輩出力と並んで主要な評価ポイントとして挙がっています。

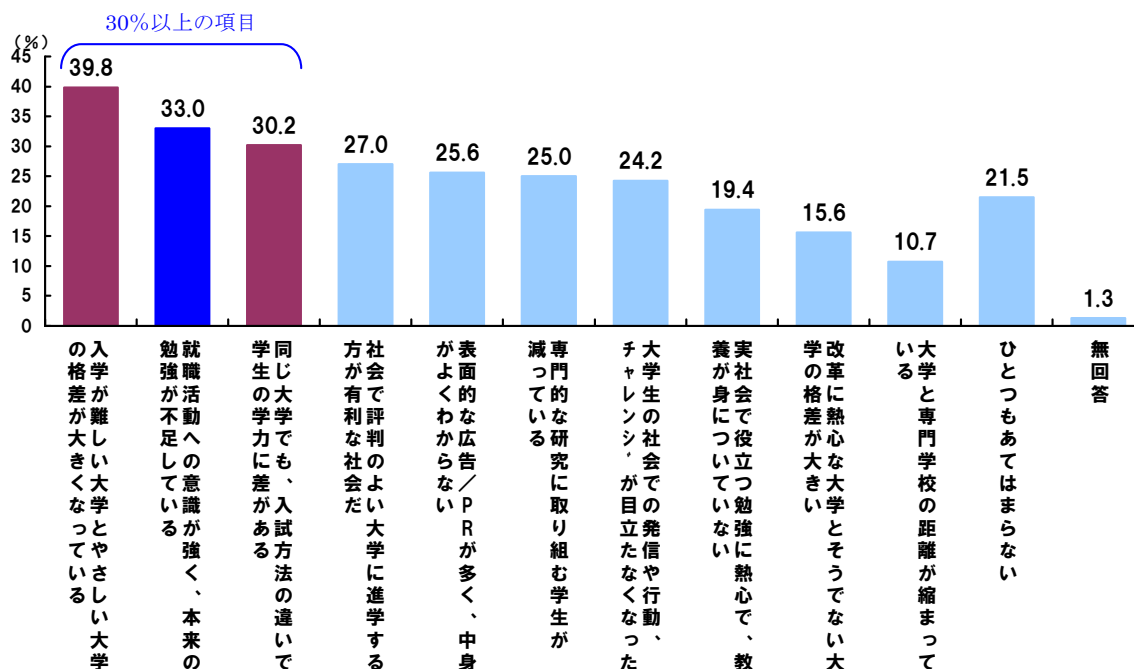
大学を評価する際に「重視する」点 (複数回答)



## ②最近の大学や大学生に対する生活者の意識

- 生活者の3人にひとり(33.0%)が、最近の大学に対して「就職活動への意識が強く、本来の勉強が不足している」という懸念を抱いていることがわかりました。
- また、「入学が難しい大学とやさしい大学の格差」や「同じ大学での入試方法の違いでの学生の学力の差」を感じている人も多く、大学や学生間に格差が広がっている印象も強まっているようです。

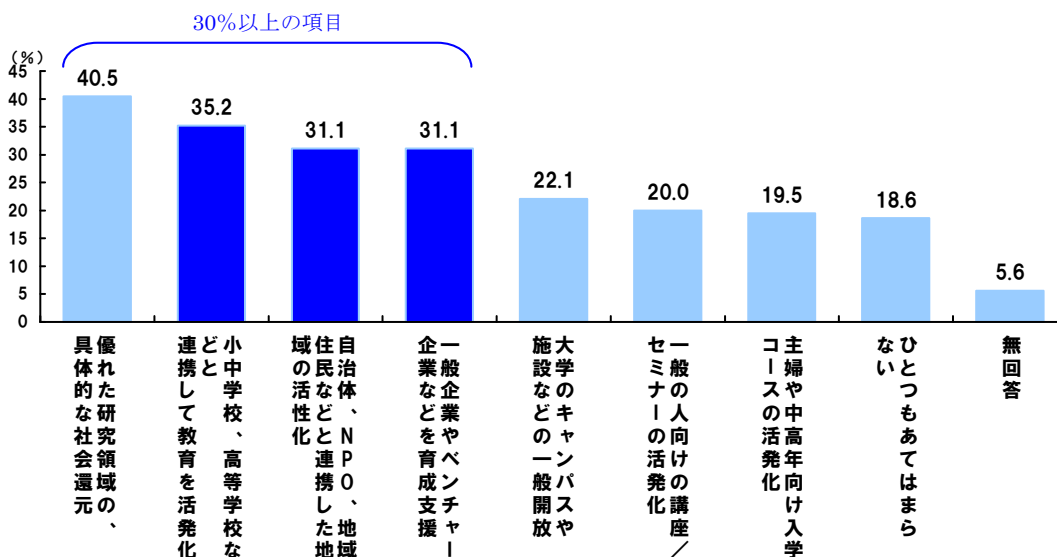
最近の大学や大学生の印象（複数回答）



## ③生活者が今後“開かれた大学”へ向けて望むこと

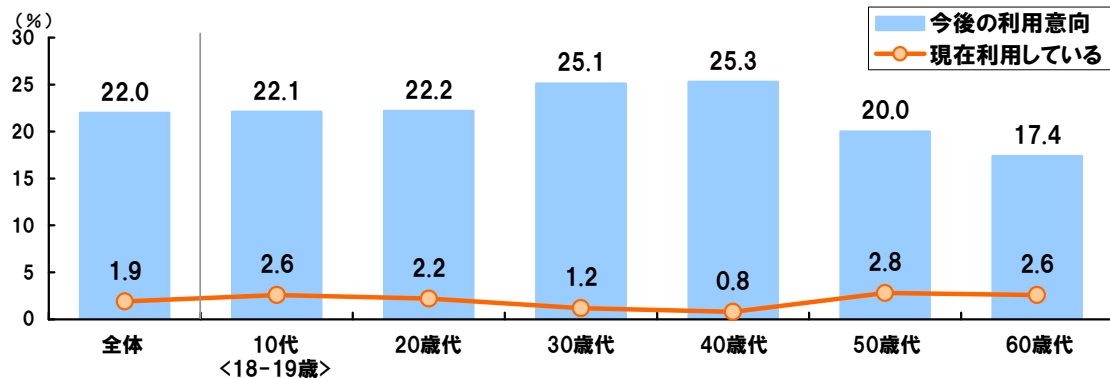
- 3割以上の生活者が、「小中高と連携して教育を活発化」、「自治体・NPO・地域住民と連携した地域の活性化」、「企業の育成支援」などの役割を大学に望んでいます。大学は、教育や学力の問題をさまざまなプレイヤーが連携して解決する際の“原動力”として、大きな期待を持たれていることが窺えます。

これからの大学に望むこと（複数回答）



- さらに、「一般人向けの公開型講座」について尋ねたところ、現在実際に参加している生活者が全体の1.9%にとどまっている状況に対し、今後の参加意向を示す生活者は22.0%にのぼり、大きな潜在ニーズが存在していることが明らかになりました。

公開型講座の利用について：現在利用している／今後(も)利用したい



博報堂教育コミュニケーション推進室は、大学や教育産業に対する最新の生活者ニーズを研究するとともに、大学が提供する価値の社会的訴求力を高めるための専門的ソリューションを幅広く提供してまいります。

[ 博報堂「教育コミュニケーション推進室」概要 ]

リーダー：梅本 嗣(みつぐ)   メンバー：21名(2010年12月時点)

WEB: <http://h-education.jp>

(本調査結果に基づいた所見等を近日中に掲載します)

主な活動内容：大学、教育産業等に対するプロジェクト型改革マネジメントサポート、ビジョン/ミッションステートメント策定、ブランドアイデンティティ開発・運用、中期計画の立案支援、Webサイト開発、グローバル戦略策定支援、周年事業戦略支援、広報体制・対応サポート、オープンキャンパス改善支援、大学志願者・入学者エリア構造分析、入学者・辞退者調査、卒業生追跡調査等

[ 調査概要 ]

- 2010年9月に首都圏・関西圏で実施したHABIT\*調査のテーマとして、博報堂「教育コミュニケーション推進室」が企画・設計、「大学観に関する調査」を実施。
- **本発表は、社内資料として主要大学ブランド力についての総合調査として実施したものの一部です。**
- 有効回答数は3977名(男性1959名/女性2018名 首都圏2640名/関西圏1337名)。(調査の内容から18～69歳を調査対象年齢として設定しています。)

\*HABIT調査… 博報堂が継続的に実施している生活者個人の意識や実態を幅広くつかむためのオリジナル調査。首都圏・関西圏の10～69歳男女約5,000サンプルを対象に毎年実施。

<このリリースに関するお問い合わせ : 博報堂広報室 西尾・山野 (TEL:03-6441-6161)>

\*\*\* 【参考資料】:「大卒層」を対象とした詳細分析結果 \*\*\*

(注) このページ以降では、大学に対する生活者意識をより鮮明に分析するため、「大卒層」(=在学中、もしくは短大・高専・大学・大学院卒)を母集団(サンプル)とした分析結果(\*1)を掲載していますので、ご注意ください。

(p1~p3のニュースリリース本文は、生活者全体を母集団としています)

(\*1)「大卒層」を母集団とした理由:

「大学を評価する際に重視する点」に関する設問において、呈示した20項目すべてについて「わからない/無回答」とした割合が、中学卒層では39.7%、高校卒層では21.0%と高い数値を示したことから、「大学に接点がない生活者は大学の評価に関心が薄い」と考えられます(大卒層では「わからない/無回答」の割合は7.8%と少数)。より鮮明に生活者の大学に対する意識を浮き彫りにするため、以降の参考資料では、大学と接点のある「大卒層」を母集団とした分析を実施しています。

【詳細結果①-1】生活者が大学を評価する視点 × 年代別

「大学を評価する際に重視する点」について、大卒層を年代別で詳細分析すると、「20・30代」は「進路/就職支援の面倒見がよい」・「社会で直接役立つ実学が学生の身につく」など進路支援や就学スキルのサポートへの重視度が高く、「50・60代」では「研究力の高い分野がある」「優れた研究者を輩出」といった研究面での成果、「社会的責任や倫理感が高い」「大学の理念/特徴が明確」「これからのビジョンや道筋が明確」などの倫理面への重視度が高いという構造が読み取れます。

「大学を評価する際に重視する点」

大卒層(在学中もしくは短大・高専・大学・大学院卒)年代別比較 (N=2001)

単位:%	大卒層 全体	10代 <18.19歳>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
進路/就職支援の面倒見がよい	44.3	55.9	49.9	44.8	50.4	38.4	34.0
卒業生が社会で多く活躍している	41.7	44.1	41.0	40.3	47.1	40.3	38.0
研究力の高い分野がある	40.1	35.6	33.9	35.1	41.1	44.7	47.9
幅広い知識/教養が学生の身につく	39.0	37.3	36.0	39.4	41.6	38.6	38.7
社会で直接役立つ実学が学生の身につく	36.5	39.0	38.9	42.4	38.7	30.4	28.8
卒業資格をきちんと審査している	36.1	27.1	38.3	30.5	37.3	35.9	42.0
優れた研究者を輩出している	35.0	22.0	25.7	31.0	37.1	40.5	43.9
社会的責任や倫理感が高い	33.3	18.6	23.0	28.4	38.0	34.8	45.4
教育の方法/改革に熱心	32.6	27.1	31.6	31.2	34.2	31.2	35.9
大学の理念/特徴が明確	30.2	27.1	20.6	26.6	30.4	32.9	42.3
これからのビジョンや道筋が明確	28.6	32.2	21.8	27.9	29.1	27.7	36.2
優れた教員、有名な教授が多い	27.2	18.6	22.1	24.5	29.6	31.2	30.4
情報公開に積極的	22.2	15.3	20.6	20.6	22.9	23.8	24.8
時代にあった改革に熱心	21.7	22.0	18.3	19.7	22.2	21.4	27.6
地域や産業との連携に熱心	20.0	13.6	17.7	19.3	18.7	20.3	26.1
学力や意欲の乏しい学生を入学させない	19.1	20.3	11.8	12.8	18.0	23.8	31.6
スポーツ/文化で貢献	9.9	18.6	9.7	10.0	12.4	7.4	8.0
入学志願者が増えている	8.9	6.8	10.3	6.5	8.7	9.3	11.0
一般の人向けの講座などが豊富	8.8	6.8	8.3	8.4	7.6	8.8	12.3

## 【詳細結果①－２】生活者が大学を評価する視点 × 同居子ども年代別

さらに、大卒層のうち同居している子どもを持つ層（＝保護者層）を「子供の年代別」で比較すると、社会人や大学生の子どもをもつ保護者は、「研究力の高い分野がある」「優れた研究者を輩出している」「優れた教官、有名な教授が多い」などの研究面での成果を重視している一方で、小学生未満や小学生の子どもをもつ保護者は、研究面での成果を重視せず、「社会で直接役立つ実学が学生の身につく」といった就学スキルの獲得をより重視していることが読み取れます。

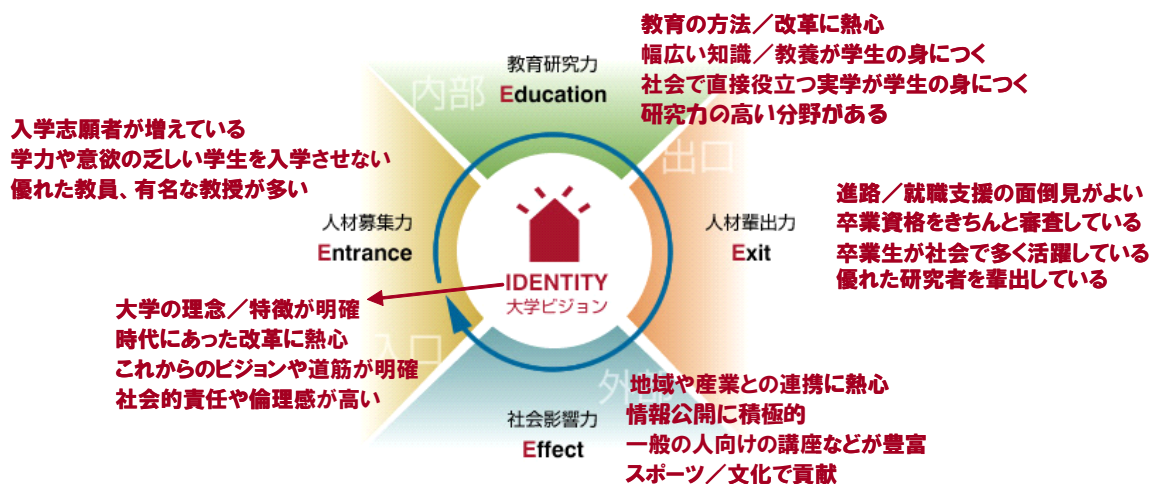
### 「大学を評価する際に重視する点」

大卒層（在学中もしくは短大・高専・大学・大学院卒）で同居の子供あり、子供年代別比較（N=1242）

単位:%	同居の子供あり (計)	小学生 未満	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人
進路／就職支援の面倒見がよい	46.0	44.5	52.3	55.7	48.0	45.4	39.4
卒業生が社会で多く活躍している	44.2	40.5	45.3	47.8	46.4	47.3	42.5
研究力の高い分野がある	39.9	37.6	40.1	46.3	40.2	39.5	40.4
幅広い知識／教養が学生の身につく	39.1	35.4	36.2	40.4	38.5	44.4	41.0
社会で直接役立つ実学が学生の身につく	38.0	42.0	41.8	39.9	36.3	33.7	31.2
卒業資格をきちんと審査している	36.6	31.2	35.7	39.4	38.5	39.0	41.6
優れた研究者を輩出している	36.6	30.2	30.9	36.5	34.1	44.4	44.3
社会的責任や倫理感が高い	34.8	26.5	32.0	37.4	33.5	38.5	40.4
教育の方法／改革に熱心	32.7	32.7	33.1	34.5	33.0	31.7	32.1
大学の理念／特徴が明確	30.7	27.0	28.5	29.6	29.6	30.2	37.0
これからのビジョンや道筋が明確	28.9	25.8	27.7	30.0	26.8	28.3	32.1
優れた教員、有名な教授が多い	28.6	24.1	26.1	31.0	31.3	32.2	29.4
情報公開に積極的	22.8	20.4	21.8	23.6	21.2	25.9	26.6
時代に合った改革に熱心	21.3	17.9	21.1	19.7	16.8	21.5	23.9
地域や産業との連携に熱心	20.0	18.7	17.9	17.2	19.6	20.0	23.9
学力や意欲の乏しい学生を入学させない	19.6	16.0	14.2	16.3	22.3	22.9	26.0
スポーツ／文化で貢献	9.4	7.6	8.3	7.9	8.9	12.7	10.4
入学志願者が増えている	9.4	10.1	12.0	13.3	9.5	8.3	6.7
一般の人向けの講座などが豊富	9.1	9.3	8.7	7.4	5.6	5.9	12.5

なお、本調査項目は、「大学を評価する視点」として当推進室の設定モデル

「5つの領域・19の観点」（下図）について、「重視度」（重視する、ある程度重視する、重視しない、わからないからの選択）を調査したものと なっています。



## 【詳細結果②－１】最近の大学や大学生への印象×年代別

「入学が難しい大学とやさしい大学の格差拡大」「同じ大学でも、入試方法の違いで学生の学力に差」などの大学や学生間の格差は、「50代」や、当事者である最近大学で学んだ「10・20代」で意識が強い傾向があります。「就職活動への意識が強く、本来の勉強が不足している」という懸念は特に「50代」で高く、「60代」では「専門的な研究へ取り組む学生の減少」、「大学生の社会での発信や行動、チャレンジが目立たなくなった」などの懸念が強いことが顕著です。

### 最近の大学・大学生への印象

大卒層（在学中もしくは短大・高専・大学・大学院卒）年代別比較（N=2001）

単位：%	大卒層全体	10代 <18.19歳>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
入学が難しい大学とやさしい大学の格差が拡大	44.4	<b>44.1</b>	<b>39.2</b>	33.3	<b>46.0</b>	<b>57.0</b>	<b>49.4</b>
就職活動への意識が強く、本来の勉強が不足	37.6	20.3	27.4	31.0	36.9	<b>45.8</b>	<b>52.8</b>
同じ大学でも、入試方法の違いで学生の学力差	36.3	<b>61.0</b>	<b>41.0</b>	26.6	35.8	<b>42.7</b>	34.0
社会で評判のよい大学に進学する方が有利な社会だ	31.5	32.2	31.0	26.0	33.3	32.3	36.2
表面的な広告／PRが多く、中身がよくわからない	28.7	27.1	28.3	27.7	29.3	27.9	31.0
大学生の社会発信・行動・チャレンジが目立たなくなった	27.7	22.0	21.5	20.6	26.9	34.5	<b>39.0</b>
専門的な研究に取り組む学生が減っている	27.7	15.3	25.7	21.0	24.2	33.2	<b>40.2</b>
実社会で役立つ勉強に熱心で、教養が身につけていない	20.6	11.9	13.9	16.0	15.6	23.8	<b>39.3</b>
改革に熱心な大学とそうでない大学の格差が拡大	18.5	11.9	15.6	15.4	17.3	<b>21.1</b>	<b>26.1</b>
大学と専門学校の距離が縮まっている	12.0	5.1	12.1	10.0	9.8	15.6	15.0

## 【詳細結果②－２】最近の大学や大学生への印象×同居子ども年代別

大卒層のうち同居している子どもを持つ層（＝保護者層）を「子供の年代別」で比較すると、子どもが高校生や大学生の保護者は、受験期に近いこともあり、「入学が難しい大学とやさしい大学の格差が大きくなっている」や「同じ大学でも、入試方法の違いで学生の学力に差がある」といった“学力格差”への懸念が強い傾向が読み取れます。

一方で、子どもが社会人の保護者は、「大学生の社会での発信や行動、チャレンジが目立たなくなった」「専門的な研究に取り組む学生の減少」「実社会で役立つ勉強に熱心で教養が身につけていない」などが高く、近年の大学生の元気のなさ、勉学の取り組みの低さに懸念を抱いている様子が分かります。

### 最近の大学・大学生への印象

大卒層（在学中もしくは短大・高専・大学・大学院卒）で同居の子供あり、子供年代別比較（N=1242）

単位：%	同居の子供あり (計)	小学生 未満	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人
入学が難しい大学とやさしい大学の格差が拡大	44.6	34.6	38.8	48.3	<b>57.0</b>	<b>58.0</b>	50.2
就職活動への意識が強く、本来の勉強が不足	38.7	30.2	34.4	41.9	40.8	<b>44.9</b>	<b>46.8</b>
同じ大学でも、入試方法の違いで学生の学力差	35.3	27.5	28.5	39.9	<b>48.0</b>	<b>48.8</b>	37.3
社会で評判のよい大学に進学する方が有利な社会だ	31.3	28.0	29.8	34.5	33.0	33.7	32.7
表面的な広告／PRが多く、中身がよくわからない	28.7	30.0	26.1	<b>34.5</b>	31.8	24.9	28.1
大学生の社会発信・行動・チャレンジが目立たなくなった	27.4	21.1	23.3	26.6	31.8	<b>37.1</b>	<b>35.5</b>
専門的な研究に取り組む学生が減っている	26.4	21.4	22.2	26.6	29.6	<b>34.1</b>	<b>35.8</b>
改革に熱心な大学とそうでない大学の格差が拡大	19.6	17.2	18.5	22.2	22.3	19.5	22.0
実社会で役立つ勉強に熱心で、教養が身につけていない	19.2	13.5	13.5	19.7	15.6	22.4	<b>29.7</b>
大学と専門学校の距離が縮まっている	11.0	10.3	9.4	10.3	12.3	9.8	14.7



### 【詳細結果③－１】生活者が今後“開かれた大学”に対して望むこと

「今後、学生以外への開かれた大学として望むこと」として設定した7項目について、大卒層の「思う」割合を年代別で比較すると、60代で「優れた研究領域の具体的な社会還元」といった社会貢献と、「自治体、NPO、地域住民などと連携した地域の活性化」「一般人向けの講座／セミナーの活発化」といった参加型の事業の充実を望む声が多くありました。一方、今後の大学利用意向が高い30代・40代は、「小中、高などと連携して教育を活発化」への期待が高く、教育事業の充実への期待が高い結果となりました。

#### 今後開かれた大学へ向けて望むこと

大卒層（在学中もしくは短大・高専・大学・大学院卒）年代別比較（N=2001）

単位：%	大卒層全体	10代 <18.19歳>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
優れた研究領域の、具体的な社会還元	47.0	28.8	29.8	39.0	49.1	<b>58.1</b>	<b>64.1</b>
小中学校、高等学校などと連携して教育を活発化	35.1	18.6	28.6	<b>41.3</b>	<b>44.4</b>	27.7	31.6
一般企業やベンチャー企業などを育成支援	34.1	32.2	35.4	29.2	32.0	<b>39.5</b>	36.8
自治体、NPO、地域住民などと連携した地域の活性化	31.8	25.4	28.0	28.6	28.4	34.8	<b>42.6</b>
大学のキャンパスや施設などの一般開放	23.2	20.3	24.5	20.8	23.8	22.7	25.5
一般人向けの講座／セミナーの活発化	21.8	8.5	22.1	17.7	18.2	25.2	<b>30.7</b>
主婦や中高年向け入学コースの活発化	19.5	8.5	18.0	20.3	18.7	20.8	21.8
無回答	5.0	11.9	5.0	3.9	2.9	6.8	6.1

### 【詳細結果③－２】今後、参加してみたい公開講座（領域×年代別）

「今後、自分が参加してみたい公開講座」として設定した7領域は、大卒層全体で広く分散した参加へのニーズが見られ、年代別に比較すると、各領域で1割前後の参加意向を持つ年代層がみられます。具体的に、「10・20代」では「資格取得／実務」、「語学」が、「30代」では「親子で参加する学びの教室」、など、「50・60代」では「教養講座」などが比較的高い状況です。「40代」は多様な領域に参加意向の広がりが見られるのが特徴的です。

#### 今後参加してみたい公開講座

大卒層（在学中もしくは短大・高専・大学・大学院卒）年代別比較（N=2001）

単位：%	大卒層全体	10代 <18.19歳>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
利用意向計（下記何れか）	28.5	27.1	27.4	30.7	29.8	28.2	25.2
資格取得／実務講座	10.1	<b>16.9</b>	<b>16.8</b>	<b>12.1</b>	9.1	6.6	4.3
語学講座	10.3	<b>18.6</b>	<b>14.2</b>	10.6	11.6	6.8	6.7
教養講座	13.2	6.8	11.5	11.3	12.2	<b>17.0</b>	<b>16.0</b>
趣味的な講座	10.3	5.1	10.0	10.8	9.1	13.2	9.2
親子で参加する学びの教室	8.5	1.7	8.3	<b>16.7</b>	10.7	2.7	1.8
ビジネスパーソン向けの講座	6.4	3.4	9.1	7.6	7.6	4.1	3.7
大学の先生や文化人などのセミナーやシンポジウム	10.1	3.4	6.2	10.2	11.3	10.7	13.2